

平成26年度 第4回御殿場市市民協働型まちづくり推進協議会 概要

日 時：平成27年3月2日（月）午後3時5分～午後3時47分

場 所：市役所 第5会議室

出席委員：飯田章・小宮山洋子・篠川キミ・滝口美乃理・湯山有朋・渡邊恵子・
渡邊茂夫・林久子・小宮山なほみ・山崎喜三・田代一樹・勝間田守正・
井上史代・渡邊達也・勝又啓友

アドバイザー：牛山教授

事務局：芹沢統括・鈴木主事

進行：統括

1 開 会（15：05）

山崎喜三副会長

2 会長あいさつ

渡邊恵子会長

3 協議事項について

議事：会長

（1）10月10日視察研修報告【資料1】

【資料1】に基づき、事務局より説明。

以下、参加者より報告

①委員A：一番嬉しかったのは、行政の委員が一緒に行ってくれたこと。今までは市民委員ばかりだった。横須賀市は条例や審議会のシステムも成長しており、人口規模も大きく、金額も大きかった。うらやましかったのはサポートセンターの賑わい。市民活動が活発である印象を受けた。ただ、補助金の申請団体を見ると御殿場市とそれほど変わらない内容のものもあった。

②委員B：横須賀市の審議会は、補助金事業の金銭面について非常にシビアな形で関わりを持っており、御殿場市の協議会は、活動に重点を置いて審査を行っている。これは、両市の間で大きな違いであると痛切に感じた。サポートセンターについては、人口規模が大きいことや大学があるといったことから、それに比例した賑わいを見せていた。NPO 法人の数については、対人口数で比較したときに、御殿場市もそれなりの数を維持できてい

と感じた。

③委員 C：ボランティア登録をされていて、必要な時に活動できる体制は非常に進歩していた。御殿場でも、区の中であればよいと感じた。市民公益活動ポイント制度も、認可を受けて仕事をするとポイントがたまり、優待が受けられるという点で優れており、非常に参考になった。

④委員 D：私たちの立場は、まちづくり事業のプレゼンや報告、現場を見て補助金事業を見定めることが最大の役割だと思っている。横須賀の視察で、広域性がある事業が多いという印象を受けた。御殿場は公益性の観点からいうとどうかなというものもあるので、今後の市民協働の課題として進めていった方がよいのではと感じた。サポートセンターについては、御殿場のセンターも意外と活発であることが多いが、今後は広報などを活発に行い、利用する子育ての団体などが市民協働事業に手を挙げてくるよう広めていければ。また、実際に活動している現場も見学したかった。補助金終了後の活動が課題となってくるので、そのような良い例を見たかった。

⑤委員 E：横須賀の提案の中で、公園管理を市民協働で行っている例があり、まさに市民協働であると感じた。私も委員になる前は、協働とはどのようなことなのか知らなかった。今日の午前の教授の講座を聞き、市民協働が大切だと実感したので、是非行政で PR してほしい。

⑥委員 F：御殿場の団体も、エネルギーをたくさん持っていて、すでに活動をしていたり、何かきっかけがあれば何でもできるという人が多いと感じる。子供会、PTA も 100%の組織率があり、エネルギーもノウハウも持っているが、自分の業務を超えてよいことをするというのに非常に高いハードルを持っている人が多いのではと感じた。支援センターだけではなく、公民館等で活動できたり、ハードルが下がれば市民協働の幅も広がるし、できることも広がる。横須賀の例を参考しながらどのようにきっかけづくりや PR をしたらよいのかと考えながら視察を終えた。

(2) 平成27年度予定について

(資料2・3)

【資料2・3】に基づき、事務局より説明。

4 その他

委員 A：経過報告の団体があったが、事業報告書が提出されたら送っていただき、意見を言ってもよいのか。

事務局：委員の改選があったので、この時期に全団体行なった。送ることは可能。

委員 A：報告会の反省はしないのか。報告の時は気づかなかったがあとからよく考えたらここはちょっとおかしくないかというところが皆さんあるのでは。時間を設けて皆さんに意見を出していただいた方がよいのではないか。団体の報告で、どこからどこまでが補助金事業なのかよくわからなくなってくるがあった。団体の活動報告であり、質問するにもできなくなってしまうところがあった。

委員 B：同感。補助金に対しての報告でないと、だんだんポイントがわからなくなってくる。

アドバイザー：時間はやはり計った方がよい。皆さんが点数をつけ、評価をしているので。

委員 F：事務局から報告資料が求められていることを知らずに、団体から資料の作成協力依頼があった。そのタイムスケジュールを協働の相手方にも知らせてほしい。そうすれば団体にもアドバイスができた。できる限り早く教えてほしい。

委員 G：報告会を聞き、目的に対して成果がきちんと出たのかが聞き取れなかった。自分たちの自己満足のためにやればよいのではなく、目的をしっかり認識してほしい。また、発表の方法も練習をして、一般の市民の人にも聞いてほしい。

委員 H：団体の熱い思いは伝わってきた。限られた時間の中で話をする難しさはあるが、もう少しノウハウを伝えた方がよいと感じた。委員としては、受け止めつつも冷静に考えていく必要があると感じた。

委員 I：団体が協働の方法をわからないままやっていることがあり、その部分は発展の余地が多々ある。課題をどんどん発見し、今後につなげていただければ。

委員 J：点数をつける時間（じっくり考える時間）がほしいと感じた。

事務局：点数は、HP で公開する。

委員 K：公募しても次の委員が集まらないということが非常に残念。団体の紹介で何とか委員を決めてきている現状だが、普段の立場が皆一緒なので、本当の一般市民の目で、どのように考えるかが大きなポイントである。応募できる募集方法が必要ではないか。行政主導型の市民協働となっていて、残念である。仕事を持っているので、なかなか参加できず申し訳なかった。

*映画「じんじん」について会長から紹介。

5 閉 会（15：47）
湯山有朋副会長